



良好な職場環境

コロナ禍におけるマナーと配慮

【研修について】

- ・本研修の目安時間は、15分間です。
- ・講師の指示に従って、本資料を読み進めてください。
(勝手に本資料を読み進めないでください。)

【本研修の目的】

- ・隣の人や、後ろの人と**意見交換をしながら、学ぶことを目的としています。積極的に発言しましょう。**

本研修用資料は、2020年12月時点の情報を基に作成しています。

予防に関する最新の情報は、厚生労働省や各自治体のWebサイトを参照してください。
また、業務に関する事項などについては自社のルール等も踏まえて議論を行ってください

コロナ禍におけるマナーと配慮

現在、私たちは、新型コロナウイルスへの感染予防をしながら、新たな生活様式を実践しているところです。

感染予防が重要であることは、誰もが共通して理解していることですが、どのような行為を不安に思うかは、人によって様々です。

今回は、コロナ禍の現在で、感染リスクや予防策などについて様々な考え方を持っている周りの人たちと、どのように接するべきかを学びます。

CASE1: 口頭で質問をしてくる人に注意をしたら…

職場には、Aさんに対し、口頭で仕事の質問をする人が何人かいいます。Aさんは、「口頭じゃなく、メールやチャットでも質問できるのに…」と感じていました。

そんな中、マスクをしているとはいえ、感染防止についての配慮が足りていないと感じたAさんは、質問をしてきた相手に、「非常識です！」と強めの口調で注意をしました。



Aさんの対応は不適切ですが、その理由は何でしょうか？

A

1

相手の考え方を聞かずに、一方的に非難をしています。

- 口頭で済む質問をメールで行うこと
が常識とはいきません
- 不安に思うことがあつたら、そのこ
とを伝えてお互いの理解を図りま
しょう



自分の考えだけで、相手に配慮がないと決めつけてしまうと、職場の雰囲気が悪化してしまいます。たとえば、質問をしにきた人は、メールでは説明しづらいから、あえて話しかけてきたのかもしれません。このように自分とは異なる考え方がありうることは、常に念頭に置くべきです。

CASE2：同僚を飲み会に誘つたら…

ある日、Bさんは、仕事が早めに終わったので、同僚に酒を飲みに行こうと誘いました。世の中の感染予防策が功を奏し、感染者数が少なくなってきたので、同僚をねぎらおうと考えたためです。

しかし、同僚からは、「いや、それでも感染が怖いので…」と言われてしまいました。

Bさんは、誘いを断った同僚を「感染を気にしそぎ」だと思いましたが、無理に誘うのも良くはないと思っています。

Q2

Bさんが同僚を再度誘うのであれば、
どのように声をかけるのが、良いと思いますか？



A
2

コロナ感染予防に配慮した店を選んだことを伝え、同僚の不安を取り除く。

それでも同僚が不安に思うなら、無理には誘わない。

- 確かな知識を基にして「正しく恐れる」ことが重要です
- 正しい理解をせずに、「不安」を持つのは、「人を差別する」ことに繋がるおそれがあります
- 自分や家族に持病がある人や、罹患したくないと、予防策を徹底している人もいます。感染防止についての正しい知識を共有した上で、各自の考え方を尊重すべきです



- まずは、自治体のガイドラインや自社のルールなどをふまえ、飲み会の開催可否を判断しましょう。
- そのうえで、飲み会を行う場合は、少人数とし、感染対策が行われている店を選びましょう。また、体調が悪い人は参加せず、無理に誘ってもいけません。
- お酒を飲みすぎないようにしましょう。大声を出したり、長時間の会話をするなど、感染リスクの高い行動に繋がるためです。

CASE3：お客様に、訪問して説明したいが…

ある日、お客様からCさんに「保険の加入を検討しているので、詳しい説明をしてほしい」という依頼がありました。

Cさんは、コロナ禍の現在では、お客様はWebミーティングでの説明を希望しているはずだと考え、「訪問は止めておきます。Webミーティングでご説明します」と案内しました。



Q3

Cさんの案内に改善すべき点があるとすれば、
それはどこでしょうか？

A
3

訪問・Webミーティング・電話といった選択肢をお客様に提示して確認していない点です。

感染リスクの少ないWebミーティングを提案する方が、相手を不安にさせる可能性が少ないので確かです。

しかし、お客様は、「感染対策を行っているから訪問してほしい」と考えている可能性もあります。

いくつかの選択肢をお客様に提示し、選択をしてもらう方が、より良い対応といえます。



お客様を訪問する場合は、次の点に注意をしましょう。

- ・必ずマスクを着用し、マスクはきっちり鼻まで覆うようにする
- ・先方の自宅やオフィスに到着したら、手指の消毒を行う
- ・打ち合わせでは、できるだけ対面にならないように着席する

なお、発熱がある・体調が悪いといったときは、訪問を控えるべきです。

まとめ

- ・ 感染予防のためだとしても、自分の正しいと思うことを「常識」として押しつけるのは避けましょう
- ・ 感染リスクに対して意見の相違があれば、お互いに伝え、理解する、歩み寄ることを心掛けましょう
- ・ お客様との打ち合わせ方法は、複数の選択肢を提示し、相手の要望も聞きながら、感染リスクの少ない方法を優先しましょう

マナーの基本は「相手を思いやること」。
これはコロナ禍においても変わりません。

会社と働く人たち、その家族を守るのは
あなたのコンプライアンス行動です。

お疲れ様でした。